

2017年7月28日

2017年度第1四半期決算説明会 質疑応答サマリ

沖電気工業株式会社

Q：プリンター事業の構造改革費用で12億円を計上していますが、その進捗についてどういった内容を行ったか教えてください。

A：プリンター事業については中期経営計画発表のときにもお話ししましたが、今期戦略を大きく見直し、フルラインアップというところから、われわれの勝てるところ、特長のあるところにより特化していこうとしています。具体的にはインダストリー市場、大判、LEDといったところになります。そのような事業転換を図っていきますと海外の販売子会社の組織の再編、リソースの見直し、再配置などが必要になってきます。組織のスリム化ということです。欧州・米州、一部中国も含めて、採用や特別退職金含めてコストを織り込んだのがこの構造改革費用になります。第一四半期では12億円を計上し、着実に進行しています。

Q：営業利益の変動要因の物量変動と機種構成差について30億円ほどマイナスなのですが、セグメント別に分けるとどのようなイメージになりますか。

A：30億円の主な内訳ですが、部門としては情報通信、メカトロ、プリンターになります。機種構成差については情報通信、メカトロがその中の大きな要素を占めています。

Q：EMS事業については対前年度で伸びており、大口顧客の戻りが予定通りということですが、それ以外では顧客別でみるとどういった分野が伸びていますか。

A：どの業種ということではなく、全体的に伸びています。引き合い等も強く、全体的に好調です。

Q：情通事業の機種構成悪化というのは、どういったものになりますか。

A：情報通信事業は非常に幅広い事業の組み合わせになります。具体的に数字をお話しするのは難しいのですが、昨年はスポット的に利益率の高い組み合わせの大口案件がありました。そういった案件は今回なかったということになります。

Q：上期はあまり利益が出ないセグメントで、2Qに13億円くらい利益が出る計画だと思われていますが、このあたりの確度について教えてください。

A：受注残を見ておりまして今のところ、順調です。

Q：前年度対比で実質 36 億円の減少というお話でしたがブラジルの子会社を 2 四半期取り込んだ影響と国内の現金処理機の反動減、この 2 つの影響がざっくり 10 億円ということでしょうか。

A：ブラジルの子会社連結影響と昨年度売却した子会社の影響が 10 億円の内容です。

Q：メカトロシステム事業の中国での ATM の販売台数はどれくらいでしょうか。OKI ブランドと OEM の内訳はどのくらいですか。

A：第一四半期における中国の ATM 台数は 500 台です。前年はこの時期トータルで 1,000 台でした。また、昨年度の年間実績は約 1 万台で、今年度は 7,000 台を目標にしています。ブランドごとの開示は行っておりません。進捗については計画立案時と大きく変更はありません。中国の都市部と農村部では大きく状況が異なり、都市部では ATM の普及も一巡し、需要は厳しい状況ですが、地方については引き合いがあります。また入金が必要が大変ありますので、いわゆる現金処理機の需要は活発になっています。当初からの我々の事業計画と大きな変化はありません。

(注) 本資料における予想、見通し、計画等は、現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断される一定の前提に基づいております。したがって実際の業績は様々な要因により異なる可能性があります。なお、内容につきましては理解しやすいように部分的に加筆・修正をしております。